

2014年 IBA-boys

[メルボルン国際親善大会]

(平成26年3月25日~4月3日)

[サムライ]チーム



公益社団法人 少年軟式野球国際交流協会

2014年メルボルン遠征日程表

月日	曜日	時間	日程内容
3月25日	(火)	8:10 11:10 17:45 21:15	成田国際空港 第1ターミナル4F南ウイング集合(Kカウンター12, 14) 成田空港発 (SQ637便) シンガポール空港着 (到着後空港で夕食, メルボルン行きに乗り換え) シンガポール空港発 (SQ227便)
3月26日	(水)	7:50 9:00 17:00 17:30	メルボルン空港着 通関後バスにて市内観光(途中昼食) ウェイバリー球場へ移動 ホームステイ家族の出迎え、役員はホテルへ
3月27日	(木)	8:00 8:30 9:30 13:00 15:00	ホームステイ家族が送迎(Waverly Baseball Ground) 第10回全オーストラリア国際大会・開会式 (Waverly Baseball Ground) 第一試合(9:30-11:00) / 昼食 第二試合(13:00 - 14:30) 歓迎会レセプション
3月28日	(金)	10:00 11:00 12:30 13:30	球場(Essendon Baseball Ground)集合(ホームステイ家族が送迎) 第三試合(11:00-12:30) 昼食(12:30 - 13:30) 第四試合(13:30 - 15:00)
3月29日	(土)	9:30 10:30 11:30 12:00 13:00 15:20	ベルグレイブ駅集合 (ホームステイ家族の送迎) パフフィンギブリー蒸気機関車搭乗 エメラルド駅到着後昼食 球場へ移動 (Upway Baseball Ground) 第五試合(13:00 - 14:30) 第六試合(15:20 - 16:50)
3月30日	(日)	午前中 13:00 14:00 16:00	ホームステイ家族とフリーな時間 (買い物等) 球場(Upway Baseball Ground)集合(ホームステイ家族が送迎) 第七試合(14:00 - 15:30) 第八試合(16:00 - 17:30)
3月31日	(月)	10:00 11:00 12:30 13:30 15:30	球場(Waverly Baseball Ground)集合(ホームステイ家族が送迎) 第九試合(11:00-12:30) 昼食(12:30 - 13:30) 第十試合(13:30 - 15:00) 最終戦 表彰式・閉会式
4月1日	(火)	終日	選手はホームステイプログラム(終日ホームステイ家族との自由時間)
4月2日	(水)	午前中 13:00 14:30 16:45 21:45 23:55	ホームステイプログラム & 荷物チェック ウェイバリー球場集合後、メルボルン国際空港に移動 メルボルン国際空港でチェックイン メルボルン国際空港発(SQ228) シンガポール着後 乗り換え シンガポール発 (SQ228)
4月3日	(木)	8:00 9:30	成田国際空港 第1ターミナル着 (SQ638) 通関後、解団式・解散

メルボルン国際交流大会 2014 成績表

No.	月日	鷺宮 (久喜)			なでしこ			サムライ		
		カンガ ルーズ	○	5-2	サムライ	○	5-3	なでしこ	●	3-5
1	3月27日	カンガ ルーズ	○	5-2	サムライ	○	5-3	なでしこ	●	3-5
2	3月27日	サムライ	●	0-4	ホワイト	○	16-0	久喜	○	4-0
3	3月28日	なでしこ	●	2-4	久喜	○	4-2	ブルー	○	15-0
4	3月28日	ブルー	●	5-8	カンガ ルーズ	●	5-8	ホワイト	○	8-0
5	3月29日	ホワイト	○	11-5	ブルー	○	4-1	カンガ ルーズ	○	6-2
6	3月29日	カンガ ルーズ	○	14-2	サムライ	●	2-8	なでしこ	○	8-2
7	3月30日	サムライ	○	4-0	ホワイト	○	8-1	久喜	●	0-4
8	3月30日	なでしこ	○	7-2	久喜	●	2-7	ブルー	○	18-1
9	3月31日	ブルー	○	27-1	カンガ ルーズ	○	11-10	ホワイト	○	15-1
10	3月31日	ホワイト	○	11-10	ブルー	○	11-0	カンガ ルーズ	○	12-1
通算		7勝3敗			7勝3敗			8勝2敗		
順位		準優勝			準優勝			優勝		

2014オーストラリア遠征選手団名簿「サムライ」

役員

役職	氏名	
団長兼監督	高橋敏明	TOSHIAKI TAKAHASHI

選手

	氏名	
1	橋本 篤	HASHIMOTO ATSUSHI
2	西前 颯真	NISHIMAE SOMA
3	崎田 陽月	SAKITA HIZUKI
4	吉沢 元気	YOSHIZAWA GENKI
5	岩本 康德	IWAMOTO KOHTOKU
6	杉浦 実	SUGIURA MAKOTO
7	紙屋 仁志	KAMIYA HITOSHI
8	日野 龍我	HINO RYOUGA
9	日野 朔来	HINO SAKURA

メルボルン遠征は君達に素晴らしい思い出をくれた！

メルボルン遠征団 団長兼サムライ監督
高橋 敏明

メルボルン遠征の参加者の選手が 44 名、役員 5 名の総勢 49 名が 3 月 25 日成田空港に集合した。選手たちはオーストラリアという初めての海外に旅立とうとしている。私たちの目的は野球を通じての国際交流であり、メルボルンのビクトリア野球連盟のジュニアリーグとは長年の熱い交流が現在の関係を築き上げてきた。ホームステイを通しての遠征は選手たちにとって未知の経験であり、不安と期待の現実の間に胸をときめかしていた事を思い出す。選手がメルボルン遠征から何を学んでくれるだろうか？ 結果として「勇気」、「感動」、「自立」の IBA-boys のスローガンに結びついてくれることを期待したい。

私は今回で 13 回目のメルボルン遠征になる。過去には団長代行をしたことがあるが、今回は協会から団長を任され、その責任の重大さに心が引き締まる思いで有った。私の仕事は選手全員を無事にメルボルンまで引率し、ケガ・事故が無く、素晴らしい思い出を作るお手伝いをし、無事に日本に帰国する事が団長の責任で有ると思っている。

今回の遠征ではシンガポール経由のメルボルン行きという初めての経験も役員の皆様の協力と選手たちの素晴らしい団体行動で無事にメルボルンに到着する事ができた。しかし時には、大きな声で「怒鳴った」時もありましたが……

長かった飛行機の旅も苦痛ではなかったと思う、それは「君達の夢」が始まろうとしているからだと思う、しかし選手は顔には出さないが「不安」の気持ちが現れ始めている事を感じていた、しかし「不安」の気持ちは選手の心から消えていく事になる。

開会式の当日は曇り空から小雨が降り始め、開会式は遅延となり、試合終了後にクラブハウス前で開会式が行われた。開会式の後に「サムライ」から紙屋主将が選手を代表して英語でスピーチをする事になったが、彼は堂々とした態度でスピーチを行った。彼にとって一生に一度の機会を彼はどのような心境で話したのかと思うと、私も心がときめきました。そして、「サムライ・なでしこ」全員による「ふるさと」合唱は素晴らしく、盛大な拍手を頂いたことに感謝を申し上げたい。「久喜」チームのパフォーマンスも素晴らしかった。ホストファミリーの両親・オーストラリアの野球選手たちを巻き込んでのパフォーマンスと終了後の盛大な拍手は選手たちの胸を打ち、思い出の 1 ページに書き込まれたことと思う。「素晴らしかった！」

選手諸君がメルボルンで貴重な体験をした事は君達の一生の財産であると思う。その機会を与えてくれた両親に感謝の気持ちを忘れてはならないと思う。

ホストファミリー家族との貴重な体験は君達の心に残る大きな機会であったと思う。「英語でお話ができなかったら？」と疑問に思った選手諸君は数多くいたと思う。「1 週間のホストフ

ファミリー生活が不安！」と思った選手諸君、振り返って見て欲しい。「問題はなかった」と私は思う。それは「勇気」であり、「勇気」が問題を解決し、「勇気」が貴重な体験を助けてくれたと確信している。私たちメルボルン遠征団は「全員協力」「和」「助け合う心」が大切であったと思う。知らない地区から参加をしている選手たちとの交流、親友ができた人もたくさんいると思う。

メルボルンでの野球交流の中で君たちが得たものは何かを考えて欲しいし、助け合う心が作り出すものが人をどれだけ大きくするかを考えて欲しいと思う。

今大会では「サムライ」に「なでしこ」「久喜」の選手たちの協力があり、助け合う心が大きな思い出を作ってくれたと思う。

君達はまもなく中学に進学すると思うが、中学では英語の授業が始まります。中学校・高校・大学と進学する間、英語は君たちについて来ます。英語からは絶対に逃げることができない学問であります。「逃げるな」「諦めるな」の気持ちを忘れないで欲しい。

君たちは英語の国のオーストラリアで生きた英語を聞き、そして話してきたのだから。貴重な体験は選手諸君の人生のトンネルの入口であり、トンネルを抜けた時に君たちは大きく成長していると思う。その貴重な体験を、素晴らしい思い出を多くの人に話して下さい。なぜなら貴重な体験をした本人だから。

最後に交流にあたり、大変お世話になったビクトリア野球連盟の事務局の方々、ホストファミリーの方々、クラブチームの方々に感謝申し上げます。

メルボルン遠征で学んだこと

橋本 篤

自分は、初めて海外に行きました。

行く前はドキドキして、飛行機に乗るのも不安でした。けれども、飛行機に乗ってみると、離陸するときが面白くて、行きも帰りもシンガポール経由だったので、4回も離陸体験が出来て、面白くて良かったです。

オーストラリアに着くと、すごく日差しがきつかったです。

ホームステイは、最初とても緊張しました。けれども、ホームステイ先の家族がたくさん話しかけてくれて、最初は、ほとんど YES か NO でしか返事が出来なかったけど、最後の方は、家族が話していることがとてもよくわかるようになりました。

夕食は、とてもおいしかったです。けれども、朝食が毎日シリアルで、やっぱりお米が食べたくなりました。家族といったショッピングセンターで、お寿司のパックが売っていたので、7

ドルで買って食べました。美味しかったです。10貫くらい入っていました。わさびはバラの形をしていました。

バーベキューの時に、とてもおいしい牛肉を食べました。嬉しかったです。オーストラリアでは牛肉が沢山食べられると思っていたけど、毎日、お肉もあったけど、それ以上にとてもたくさん野菜が出て、ヘルシーでした。

ショッピングセンターで見た野菜は、安いなあと思ったし、オーストラリアは農業の自給率が高い国なんだなあと感じました。

スパイクシューズの土を持ち込まない理由も、ちょっとわかりました。

帰国したときは、行く前より痩せたと思います。

ホームステイ先は、平屋の家で、とてもたくさんの部屋がありました。トイレが、とても細長い部屋の突き当りに有って、ビックリしました。広いトイレでした。

休日は、家族とスカイハイというところに行きました。メルボルンで一番高い山です。

車で走っているときに、ガソリンスタンドには、横に全てコンビニがありました。ガソリンスタンドのマークが、日本のセブンイレブンと全く同じで、セブンイレブンがガソリンスタンドを営んでいるのかなあと思って見ていました。

野球の試合は、全部で10試合しました。初ヒットを自分が打つことが出来て良かったです。

全試合、2番打者でキャッチャーとして出ました。良く打てて、よく守れてよかったです。

オーストラリアの審判は、一人で、ピッチャーの後ろに立っているのには驚きました。キャッチャーだったので、審判が後ろにいないので、逆にのびのびとすることが出来ました。

オーストラリアの選手は、ほとんど盗塁しませんでした。

僕は、オーストラリアに行って、オーストラリアの生活と食文化に触れることが出来て、ほんとに良かったです。

この経験を生かして、自分でも、また是非海外に行きたいです。

オーストラリア遠征に参加して

西前 颯真

オーストラリア遠征の感想は、主に3つあります。

1つめは、日本とオーストラリアの野球は全然違うと思いました。レベルも違うし、オーストラリアの野球は、ほんわかした感じでした。僕は試合で結果が出せなくて、崎田君に任せてばかりで、本当にそういうところは、申し訳なくもあり悔しくもありました。まだまだ努力が足りないと思いました。

また、他のチームが助っ人に来てくれ、仲良くなれて良かったです。そういう人たちが来てく

れたからこそその優勝なので感謝しています。そして、鷲宮の鈴木君に出会えたことは、非常に嬉しい思い出です。鈴木君を目標に頑張りたいと思います。

2つめは、オーストラリアの食生活です。日本と違うなと思ったのは、朝もシリアルだし野菜が多かったです。体格がいいから、肉ばかりかと思っていたので意外でした。僕は野菜が苦手なので、残したらどうしようかと不安だったけど、だいたい美味しくて良かったです。

3つ目は、英語がとても難しかったということです。高橋監督にも、遠征前に英語を話せるようにしておいた方がいいと言われていましたが、本当にそうだと思いました。ホストファミリーが話していることも、早くて分からなかったり、分からない単語も山ほど出てきました。英語が分からなさすぎて、相手に失礼だとも思いました。日本に帰ってきて、周りが日本語でやはりホッとしました。

オーストラリアの遠征に参加して、今まで長浜の中の生活しか知らなかったのも、野球に対して、海外の生活に対して視野が広がったように思います。中学生になり、これからも野球を通して成長していきたいと思います。

オーストラリア遠征

崎田 陽月

最初、東京の人はどんな人だろうと思いましたが、すごくいい人たちで良かったです。飛行機に乗るのは不安でしたが、友達と乗ると全然不安じゃなくなりました。メルボルンに着くまでは、機内食もおいしく快適に過ごせました。

観光の後、ホストファミリーの方たちと会うときは、どんな人だろうと、思いましたがとても優しくしてほっとしました。メルボルンの家は、どの家も大きくて驚きました。最初のご飯は、日本料理屋に行きました。外国のすしもおいしかったです。

初めは、ボールがいつも使っているボールとは違い、慣れるのに大変でしたが、次第に慣れることができました。そのおかげで、いつもどおりのピッチングができエースで4番と言われたときは、とてもうれしかったです。初戦のなでしこ戦では、初心者の人たちを、狙われ負けてしまいましたが、次の試合からは、助っ人が来てくれたので勝つことができ、まだ優勝のチャンスがあると思えました。僕の中では、鷲宮が1番強いと思っていたので、最終的にサムライチームが優勝ができて本当にうれしかったです。

また、ホームステイでは、料理もおいしく、プールに入れさせてもらったり、動物園に連れて行ってもらうこともでき、最後にはプレゼントをもらえて、とてもいい7日間になりました。

今回のオーストラリア遠征で、野球や英語を学ぶことができ、とても良い経験となり楽し

い思い出となりました。今後の中学生生活に生かしたいです。

オーストラリア遠征を終えて

吉沢 元気

僕は、オーストラリアに行くto決めた時、すごくドキドキしました。

同じチームメイトが2人いたから、まだ楽でした。

東京の人も来ると聞いて、仲良く出来るかなと思いました。でも、すぐにみんな仲良くなって、大丈夫だと思いました。

でも、家を10日間も一人で出ることが、今までなかったので、大丈夫かな～と思いました。

でも、ホームステイ先の人もやさしくて、すごく楽しかったです。

そして、肝心の野球は、練習もなく、チームワークもできていない中、試合をして、でも、意外にみんなしっかりしていて、むっちゃ楽しい試合だった。

結果的に、サムライが優勝して、楽しくいい結果で終わった。

僕は、「オーストラリアに行つて良かったな。」と思うのは、外国の人と触れ合えたり、東京に友達が出来て、いい思い出が出来て、いい経験が出来たからです。

オーストラリア遠征

岩本 康徳

僕は、オーストラリアでホームステイをして、色々な事を学びました。

行きの飛行機に乗った時、すごくワクワクしました。僕は、飛行機は何回も乗った事が有りましたが、こんなにも大きな飛行機は初めてだったからです。

そして、オーストラリア大陸が窓からのぞき見えた時、感動しました。自分がまだ見た事の無い風景が広がっていたからです。

初めての長旅にしては、良く寝れました。

そして、とうとうオーストラリアに着いた時に思ったことは、暑いということでした。日本は未だ冬だったので、倍暑く感じました。

僕が泊まったホームステイ先は、クーパー君の家でした。クーパー君の家はとても明るく、

慣れやすかったです。

監督に教わった英語は、とても役に立ちました。

そして、野球では、全く会った事の無い人と一緒に試合をするということで、最初は心配でしたが、少し野球をただけで、みんなと仲が良くなりました。最初の方の試合は少し苦戦しましたが、その後、勝ち続けることが出来、なんと優勝しました。

野球の事以外でも、みんなと楽しく出来ました。

最後には優勝したし、みんなと協力していろいろな事をやり遂げることが出来たので、一生の思い出になりました。

そして、改めてオーストラリアに行って良かったなと思いました。

オーストラリア遠征

杉浦 実

僕は、このオーストラリア遠征で学んだことが沢山あります。

まず一つ目は、「ホームステイ先での優しさ」です。僕は、第2試合目の鷺宮戦で、捻挫をしてしまいました。ドクターに、「ホームステイ先で足を冷やして。」と言われたので、家にある氷で冷やすのかと思ったら、わざわざセブンイレブンに行ってくれて、ランドセルぐらいの大きさで2キログラムから3キロの袋詰めされた氷を買ってくれました。それから、夜になるとほとんど毎日、氷で冷やしてくれました。そのおかげで、残りの4試合は、DHとして出場することが出来ました。これは、ホームステイ先の人やドクターのお蔭だと思っています。

外国の人は、想像では優しいかなあと思っていたけれど、実際に会ってみると、想像をはるかに越した優しさが有りました。

二つ目は、「日本の文化は世界に広がっている」ということを学びました。僕は、2日目の初めての夜ご飯の時に、日本食堂に行きました。その時、店は満員でした。しかし、予約をしていたので大丈夫でした。メニュー表を見ると、「TAKOYAKI」や[SUSHI]などと書いてありました。結局、たこ焼きにしました。友達はすしにしていました。待っている間周りをきょろきょろしていました。そしたら、透明のガラスの中に冷凍のたこ焼きが有りました。ちょっとがっかりしたけど、味はとてもおいしかったです。友達のすしのからは、とても辛かったです。

食べ終わったら、車で帰りました。その時、車は左側通行だったので、日本と一緒にいました。

日本と違ったところが、踏切で、チャイムみたいなものが鳴らなかったら一回も止まらないで行っているの、ビックリしました。

このオーストラリア遠征で、たくさんの経験が出来ました。この経験を生かして、高校生、大学生、社会人で、日本人として恥ずかしくない様頑張ります。

オーストラリアでの貴重な体験

紙屋 仁志

卒業して間もない日。待ちに待った出発の日が来ました。サムライのチームはどんな人たちがいるのか、ホームステイする家族とどんな場所に行けるのか、などすごい楽しみでした。飛行機で移動している間に、チームのみんなと仲良くなれました。チームのみんなは、思っていたよりも優しくておもしろかったです。

メルボルンへ入国すると、最初に目に入ったのは町でした。そこは、すごくきれいで、ゴミ一つも落ちていないくらいでした。その時、「ここに来られて良かった。」と思いました。その後、バスに乗って市内を観光しました。観光中に食事をする時、日本ではふつうの水とおしぼりがなかったので、「やっぱり日本もいい国だな。」と思いました。

観光が終わり、ホームステイする家族と会いました。最初はきんちょうしたけど、すごく優しくかったです。試合が始まった日には、ぼくは歓迎会でスピーチをしました。高橋さんに習った英語の勉強の成果が出せたと思います。

十試合あった中で、一番記憶に残っているのは、最後に戦ったカンガルーズとの試合です。優勝をかけた中で、みんなが自分の力を出せて、大勝しました。結果的に、ぼくたちは他のチームの力を借りてだけど、優勝することができました。力を貸してくれた人たちには、すごく感謝しています。その人たちがいたからこそ優勝できたと思っています。

ぼくは、この遠征で、ホストファミリーのおかげで、オーストラリアのきれいな海、きれいな町、自然を大切にしている人たちなどが見られて、すごく貴重な体験ができたと思います。また、野球でもたくさんの友達と思い出をつくれました。こんなことが

できたのもIBAの人たちを始め、たくさんの人たちのおかげだと思っています。これから、20年、30年たった時もこの感謝の気持ちを忘れずに人生を歩んでいきたいです。

メルボルン遠征

日野 龍我

僕は、メルボルンで試合やホームステイをして、たくさんの事を学びました。

みんなが野球を教えてくれたり、ホストファミリーと動物園に行ったり、日本ではできない、貴重な経験をすることが出来ました。

試合にも出れて、嬉しかったです。いろいろ教えてくれて、ありがとうございました。

最終日は、スーパーにも連れて行ってもらい、お土産もたくさん買いました。

メルボルン遠征に行けて、本当に良かったです。

オーストラリア遠征に行つて

日野 朔来

私は、オーストラリアに行つて、日本と全然違ふ空に驚きました。

空はとても青くて、きれいでした。

私は、今まで野球をしたことが無くて、ルールも知らなかつたのに、ルールを教えてくれたり、とても優しい人ばかりでした。

野球の試合では、今まで何も知らなかつたけど、やってみたらとても楽しかつたです。

ホームステイ先の家族みんなで、ビクトリアマーケットや動物園に行つたりして、楽しい思い出がたくさん出来ました。

オーストラリア遠征に行けて、とても良かつたです。







私たちは、少年・少女たちの
野球を通じての国際交流を応援しています。



公益社団法人 少年軟式野球国際交流協会
International Boys Nankyu Baseball Association Inc.
ホームページ <https://www.facebook.com/iba.boys>
Facebook ページ <https://www.facebook.com/iba.boys>